



日本の地質百選 選定委員会の発足と検討過程について

NPO法人地質情報整備・活用機構（GUPI）と社団法人全国地質調査業協会連合会（全地連）では、平成17年度に、日本の地質事象百選のプロジェクトを提案し、全国から候補箇所の募集を行ってきました。

平成18年度には、地方公共団体や、一般の方の意見も参考にしながら、地質関連の学協会、NPO、関係行政庁等を含む幅広い委員からなる下記選定委員会により「日本の地質百選」の選定を行ないました。

日本の地質百選選定委員会 委員名簿（50音順・敬称略、職名は委員委嘱時）

委員長：斎藤 靖二	神奈川県立生命の星・地球博物館館長、前日本地質学会会長
委員：井上 大栄	(財)電力中央研究所研究首席研究員、日本応用地質学会長
岩井 国臣	参議院議員（前国土交通副大臣、NPO法人GUPI理事）
大矢 暁	国際惑星地球年（IYPE）対応国内実行委員会会長、 NPO法人地質情報整備・活用機構（GUPI）会長
桂 雄三	文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官
加藤 碩一	独立行政法人産業技術総合研究所理事
黒田大三郎	環境省大臣官房審議官
柴田 耕介	国土交通省大臣官房総合観光政策審議官
佃 栄吉	独立行政法人産業技術総合研究所研究コーディネーター、 日本地質学会副会長
西山 英勝	日刊建設通信新聞社社長
祢屋 誠	国土交通省総合政策局技術調査官
平野 勇	独立行政法人土木研究所地質監
広瀬 敏通	特定非営利活動法人日本エコツ・リズム協会 理事
船山 龍二	社団法人日本ツ・リズム産業団体連合会会長、 立教大学観光学部客員教授
森 研二	社団法人全国地質調査業協会連合会会長
吉田 雅彦	経済産業省産業技術環境局知的基盤課長

（なお、大矢委員には平成18年11月事故により逝去されました。）

事務局・幹事

下記機関より参加

NPO法人地質情報整備・活用機構（GUPI）事務局
社団法人全国地質調査業協会連合会事務局
独立行政法人産業技術総合研究所
日本地質学会

第1回選定委員会

平成18年9月1日（金）午後2時～5時

主な議題

1. 委員長選出
斎藤靖二氏を委員長に選定。
2. 百選の名称について

10前後の名称について検討したが、次回決定することとした。

3. 百選選定の趣旨について

世界的に見ても特殊な地質環境下にある日本のさまざまな地質事象に関する情報を国民一般や地域住民と共有し、地質・地学・地球科学に対する理解の増進、貴重な自然資源の保全と活用とを図るとともに、地域振興及び『観光立国』VJICの一環としたツ・リズムの一層の発展に寄与したい。

また、地質事象上重要な情報を今まで以上に保全し、幅広く公共的理解を求めめるため、地質博物館及び巡検コースのような施設・設備を整備し、またその科学研究に対する支援の輪を広めるとともに、ユネスコ・ジオパークの候補地選定などを働きかけたい。

4. 候補箇所について

応募のあった約300箇所から委員などの推薦箇所を加えることとした。

5. 選定基準について

事務局案及び公募時の条件などについて検討し、次回に決定することとした。

第2回選定委員会

平成18年10月30日(月)午後2時～5時

主な議題

1. 百選の名称について

日本の地質百選とする。

なお、ジオ・パークに結びつく副題やジオ100を取り入れたロゴマークについても検討する。

2. 候補箇所について

委員などの推薦箇所を加えた約380箇所から選定する。(別表参照)

3. 選定基準について

専門家が地質学的見地から選定基準を明確にして選定すべきであり、地質学的に何を知ってほしいか、何を説明するのか、学問的な面が重要で、しっかりした情報をそろえる。例えば、「日本の地史として重要なもの」「岩質-堆積岩、火成岩、変成岩」「ヒスイなどの鉱物」「千枚田や第四紀などの地形と地質」「褶曲や断層などの地殻変動」「火山」「鉱山や人文遺跡などの人間とのかかわり」「防災」のジャンルから代表的な箇所を幾つか選定することとした。

最終的には次回までに確定することとした。

4. ジオ・パーク、IYPE(国際惑星地球年)との関連について

これら国連、ユネスコのプロジェクトと連携をとり、効果的な活動を行うこととした。

5. 今後の広報活動について

出版企画、マスコミ対応について検討し、目的に則った積極的な活動を行うこととした。

第3回選定委員会

平成19年3月7日(水)午後2時～5時

主な議題

1. 百選候補箇所の選定について

約400箇所の候補の中から83箇所を選定し、関係自治体に通知して了承を得た後、公表することになりました。なお、公表は5月10日に事務局ホームページに掲載するとともに、関係自治体に認定書を送付することにより行いました。

残りの20箇所程度は新たな立候補も受け付け選定を続ける予定です。

2. 今後の広報活動について

学会誌・協会機関誌等への記事掲載、解説書の刊行、リーフレットやホームページ等々を通じ

てPRすることにしました。

3．自治体との提携方法について

自治体への働きかけが重要であるとの意見が多く、具体的な提携方法について検討を継続することになりました。

4．地質に関連する諸活動の状況などについて

特にジオパークについて議論がなされました。

百選とジオパークは別だが連動した動きも必要であり、百選の残り20箇所程度の選定も含めジオパーク運動を盛り上げ、地元を支援していくために主体的に取り組むことになりました。

ジオパークについては、<http://www.gupi.jp/>をご覧ください。